


(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®]認証申請書

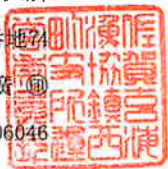
ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中


(代表申請者) 串浦の藻場を未来へ繋げる会

住所：佐賀県唐津市鎮西町串525番地1

氏名：代表 袈裟丸 彰蔵 

(共同申請者) 佐賀玄海漁業協同組合 鎮西町統括支所

住所：佐賀県唐津市鎮西町名護屋2番地74 

氏名：運営委員長 浦丸 清廣 

法人番号：8300005006046

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	202211JBCA00016
プロジェクト名称	串浦の美しき藻場を未来へ繋げるプロジェクト

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>自然基盤 吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制</p>
<p>プロジェクト概要</p>	<p>【プロジェクト概要】 対象海域（水深10m以浅）は藻場の状況として、2001年頃より磯焼けの進行が進んでいたが、ガンガゼウニを主とした食害生物の除去活動を継続した結果、2022年には活動当初と比較して大幅に磯焼けが改善し、2022年度のJブルーケ レジ ャット®認証を取得。 認証の取得を経て本プロジェクトに対してグループ全体の気運が更に高まり、水産資源の回復・気候変動対策の観点から温室効果ガスの吸収も担っている藻場の範囲を拡大するため、より広域的に活動することになった。 その結果、水深10m以浅の藻場の状況を維持しつつ、水深15mまで藻場を一部改善することができた。 本プロジェクトを遂行するにあたって、活動範囲を水深20m以浅までと考えていることから、潜水機材等の充実を図り、活動員の資格取得や各種研修会への参加など、今まで以上に効果的な活動を続け、温室効果ガス吸収源の更なる増大を目指すとともに、沿岸域の生態系を回復させることにも大きく寄与することを目指す。 また、漁業者の減少により活動規模の縮小が予想されるため、一般の参加者や企業との連携も視野にいれ活動の維持、継続を目指す。</p>
<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<p>添付資料11参照 (規約、年間計画、申請期間実績)</p>
<p>プロジェクト実施開始日</p>	<p>2010年4月～現在まで</p>

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 アラメ場</p> <p>【構成種】 アラメ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年06月02日～2023年06月01日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>9.69 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>添付資料3を参照</p> <p>【面積の資料】</p> <p>03吸収量計算20230924.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>4.2</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）をベースに、起伏や傾斜を加味し吸収係数をアラメ場：7.00に設定(添付資料7)</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>40.698 (t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>85%</p> <p>(面積：9.69 (ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：4.2 × 評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 12.00 (h)</p> <p>【出力】 30.00 (kW)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO2排出量】 0.142 (t-CO2)</p>

方法論1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】</p> <p>0.299(t-CO2)</p> <p>(面積：0.12(ha)×評価：85%)×(吸収係数：4.2×評価：70%)</p> <p>【設定した根拠】</p> <p>磯焼け当時の状況を証明する客観的証拠が乏しいが、2010年4月から始まった環境生態系保全活動時の調査データをもとに策定した(添付資料6~8)。その結果、当時は1.31 tCO2/年の吸収量があったと推定された。また、2022年9月13日の対象区周辺海域(食害生物駆除範囲外)を調査した結果、15mまでの水深帯において藻場がみられないことから、申請対象区域における食害生物除去活動の効果が明瞭に現れている。(添付資料9,10)</p> <p>【資料】</p> <p>添付資料6,7,8,9,10.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	23.773(t-CO2)

方法論2	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 ガラモ場</p> <p>【構成種】 ホンダワラ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年06月02日～2023年06月01日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>7.51 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>添付資料3を参照</p> <p>【面積の資料】</p> <p>03吸収量計算.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの吸収量】</p> <p>2.7</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】</p> <p>文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）をベースに、起伏や傾斜を加味し吸収係数をガラモ場：4.50に設定(添付資料7)</p> <p>【単位面積あたりの吸収量の資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】</p> <p>式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】</p> <p>20.277 (t-CO₂)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】</p> <p>85%</p> <p>(面積：7.51 (ha) × 評価：85%)</p> <p>【吸収係数の評価】</p> <p>70%</p> <p>(吸収係数：2.7 × 評価：70%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 調査船 (51kW / 70PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 12.00 (h)</p> <p>【出力】 30.00 (kW)</p> <p>【燃料の種類】 重油A</p> <p>【CO₂排出量】 0.142 (t-CO₂)</p>

方法論2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】</p> <p>0.369(t-CO2)</p> <p>(面積：0.23(ha)×評価：85%)×(吸収係数：2.7×評価：70%)</p> <p>【設定した根拠】</p> <p>磯焼け当時の状況を証明する客観的証拠が乏しいが、2010年4月から始まった環境生態系保全活動時の調査データをもとに策定した(添付資料6~8)。その結果、当時は1.31 tCO2/年の吸収量があったと推定された。また、2022年9月13日の対象区周辺海域(食害生物駆除範囲外)を調査した結果、15mまでの水深帯において藻場がみられないことから、申請対象区域における食害生物除去活動の効果が明瞭に現れている。(添付資料9,10)</p> <p>【資料】</p> <p>添付資料6,7,8,9,10.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	11.553(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	35.3 (t-CO2)
------------------	--------------